

岩手県野田村の支援・交流活動報告（2012年3月10-11日）

あの大地震から1年。雪交じりの冷たい風が吹きつけます。チーム・オール弘前では、3月11日の追悼式に合わせて、10日と11日の2日連続で、野田村での活動を行うことになりました。参加者は、10日は男性16人、女性7人の計23人（一般市民11人、学生7人、教員5人）、11日は男性16人、女性14人の計30人（一般市民22人、学生5人、教員3人）でした。

3月10日は、だいぶ前に参加したことがあったが、その後どのように復興しているのか見てみたい、という久しぶりに参加の方や、今回初めて参加するという方が意外に多く、1年たっても、こうして多くの方が参加してくださることは、継続的な支援ということでも大事だと思いますし、何よりも野田村を忘れないで関わる人がいるということに、うれしく思いました。

3月10日の活動は、個別訪問とランドアートのお手伝いの大きく2つに分かれて行いました。まず、個別訪問組は、2月14日の活動と同様に、仮設住宅や「みなし仮設住宅」を訪問します。チーム北リアスの活動として、NVNADや関西学院大学のみなさんに合流しました。今日は西宮で調達された「みかさのどら焼き」を手土産にまわりました。

チーム・オール弘前のメンバーは、2つの仮設住宅を担当しました。留守のお宅が多かったのですが、お会いできたところでは、二重ローンを抱えてこれからたいへんだというお話を聞かせてくださったりして、1年たって回復した側面と、そうではない側面と、おそらくより深刻になってきた側面と、いろいろな状況があることにあらためて気づかされます。

また同時並行して、野田中仮設住宅にて、シチューの炊き出しと集会所での茶話会も行われていました。私たちも途中からお手伝いして、大鍋をかきまぜたり、住民の方にお渡ししたりしました。なかなか野菜に火が通らなかつたりして、寒空のなか住民の方を待たせてしまって申しわけなかったのですが、関西からの支援のみなさんが住民の方とよい関係を作っていられるので、見習いたいなあといつもながらに思います。



大鍋のシチューをぐいぐいかきまぜる。



シチューをお渡しする準備中。

一方、ランドアートのお手伝いの方は、八戸高専の先生方や学生さんたち、そのほかの多くのみなさんとの合同作業です。このイベントは、「鎮魂と希望の夢灯り～ランドアート&チルドレン～」ということで、11日と12日、野田村教育委員会の主催で行われました。鎮魂と希望の「夢灯り」（灯ろう）を、本町通りから診療所跡地まで設置するという企画です。また、灯ろうの先には、土をこんもり盛って風船やお花などで飾ったアートが作られる予定でした。前々日から、灯ろうの作成が子どもたちや村の人々の手によって行われており、私たちは、それに続いて準備のお手伝いをしました。

この日は、総合センター内で300個近くの灯籠を作ったり、ビニールテープを重ねてカラフルなたくさんのお花を作ったり、また屋外でアートが設置される場所の整地を行ったりしました。とくに屋外の作業は、雪交じりの風が吹きすさぶなか、たいそう寒かったり、段取りにとまどったりして、なかなか厳しい作業だったようです。クリスマスのイベントも同様でしたが、こうしたイベントのお手伝いは、現地に行って臨機応変に対応しなければならないことが多く、なかなか難しい部分があります。よりよいお手伝いができるように、現地の責任者と連絡をマメにとっておく、事前にできるだけ情報を共有しておくなどの工夫を、こちらから積極的に働きかけて、やっておく必要があると、再度思いました。

この日の夜は、作道さんや南部君とともに、野田村に宿泊して、翌日に備えました。

3月11日は、忘れ難い日です。この日は、午前中から総合センターでは、東京からやって来られたグループによる和太鼓の復興祈念コンサートが行われたり、また、「東日本大震災短歌五十詠色紙展」として、岩手日報の時事川柳などの歌壇で多数入選されている野田村在住の岩岡良太郎さんが、震災以降に詠った50首の色紙の展がありました。岩岡さんの色紙の短歌には、災害の大変な状況や思いが解説付きでしたためられていて、胸を打つものがありました。またボランティアへの感謝もたくさん詠ってくださって、うれしかったです。見に来られた小田村長によると、岩岡さんは結婚式に出席されるときには、必ず新郎新婦の名前を入れた短歌を読んでいたため贈られるそうで、素敵です。

さて、まずは前日に引き続き、ランドアートのお手伝いをしました。総合学習センターにて、ビニールのお花をたくさん作ったり、黄色や白の風船を膨らませて、その風船が飛ばないように石に結びつけたりという作業を行いました。



ビニールテープで作ったカラフルなお花たち。



石と白い風船を紐で結ぶのに格闘中。

そのあと、たくさんの風船を石ごとランドアートの会場まで運びました。ところが、この日のお天気は、昨日に続いて雪交じりの冷たい風がビュービュー吹くという、屋外作業にはなんとも難しい日。予想外に、持っていく間に風船の糸が絡まりに絡まることに・・・結局、またセンターに持ちかえって、糸をつけ直すことになりました。そして今度は、糸が絡まないように、片手に一つずつそっと手に持って、また現地に運び入れました。

お昼は、いつもお世話になっている桜庭さんが差し入れてくださったおいしいおにぎり、そして、役場前で行われていた炊き出しのトン汁や温かい麺を、バスのなかでいただきました。外の作業の合間のひとやすみで、今日のお昼ご飯も、お腹にしみわたりました。

14時30分からは、「野田村東日本大震災犠牲者追悼式」が、野田村体育館で行われました。私たちも参加させていただき、一緒に黙とうと祈り、献花を捧げました。いろいろな思いの中で、みんなは涙を流し、祈りました。

そのあと、思い思いの気持ちをマジックで書きこんだ白い風船を一斉に飛ばすというイベントが役場前でありました。私たちも風船を膨らませるお手伝いをし、また、思いを書いて飛ばすのにも、参加しました。ちょっとしたニッチの活動のようでしたが、みんなで思いを込めた風船が一斉に空に吸い込まれていくというのは、なかなか印象的なものでした。



風船をランドアートの会場に運んではみたものの・・・。



白い風船に祈りを書き込む。

また別の班は、灯ろうのペットボトルが風で飛ばないように、砂を入れて道に並べていくという地道な作業をやっていました。手書きの愛くるしい絵の描かれた灯ろうがたくさんあって、またいろいろな思いがしたためられていて、つい見とれてしまいます。

そして、夕闇がせまってくる17時30分ごろ、ついに灯ろうに点火をしていきました。しかし、これまた風が強いので、火をつけたそばからあっという間に消えてしまい、みな悪戦苦闘していました。しかし、なんとか時間に間に合って、長い灯籠の道が浮かび上がり、闇が深くなればなるほど、赤い鳥居とのコントラストの中で、その幻想的な灯りが引き立って、感動的な光景でした。



夕暮れに灯ろうの灯がてんと。



子どもたちが絵を描いた灯ろうにも灯がともる。

その明りをたどって役場から海に近づいていくと、ランドアートの舞台があり、横のスペースにマイクと献花台、そしてたくさんの灯籠が集められた場所につきます。そこで、18時から、演奏会が開かれました。商工会長さんのあいさつなどの後に、献花も行われました。そして、声楽の女性がアメージンググレースなどの歌を高らかに歌いあげ、またわれらが弘前の三味線奏者、渋谷和生さんらの三味線の演奏がありました。しんと寒さが募る幻想的な光景と音色を焼き付けて、今日の活動は終わりました。



今回もお世話になった教育委員会のこやちさん。



渋谷さんらの三味線の演奏。冷たい夜に響く。

そのほか、神さんは個人でミニチュアの弘前ねぷたを作って、野田村のお世話になってる方を訪問してプレゼントしていました。野田村の名前も入っていて、とてもよくできていて、みなさん喜んでくださったそうです。また、別の方からは、全員にコンブの差し入れも頂戴したりしました。個人的には、作道さんと一緒に何度となく家にお邪魔している久慈さんから、「先生、これ！」と言って、ふかふかのマフラーを貸してもらいました。

久慈さんは寒いなか、家があった今はさら地の場所に来ておられました。そのあと、一度家に戻ってまた来てくださったのでしょうか、日が落ちた猛烈に寒いなか、突然のマフラーの差し入れ。それをぐるぐるに巻いて、私はなんとか夜を乗り切ることができました。そのマフラーの温かさとお気持ちに、ちょっと泣けてきました。

帰りのバスのなかの感想は、みないつになく時間をかけてお話をしてくれました。「節目の日を被災地で過ごすことができよかった」「今日という日に野田村の方と一緒に黙とうができてよかった」「夢灯りに、ありがとうと書いてあってうれしかった」「凍えるような寒さというのは、こういうことだなあと思いました。でも野田村の夜を体験できたのはよかったです」「今日の寒さだと、1年前はものすごい寒かっただろうなと感じました」「寒くてよかったという気もします。同じ寒さを自分も少し味わうことができた。寒くても我慢しよう、と思えた。雪でよかったです」「灯が鳥居までつながったのを見て、よかったなあと思いました。でもふだんあそこは真っ暗なんだなあと気づきました」

今日もまた、新たな一日。これから続く長い道のりの新たな一日として、刻まれました。4月からは学生事務局のみんなも少しずつ入れ替わり、また活動自体も変わってゆくのだと思います。多くの方からのご指導、ご批判もいただきつつ、また野田村のみなさんと一緒に歩いていきましょう。ご支援、ご鞭撻のほど、よろしく申し上げます。



10日のメンバー。行って見て、あまりの寒さにみんな驚きました。



11日のメンバー。一般市民の方が多く参加してくださいました。パワーアップ！

(人文学部教員 山口恵子)